※令和４年度以降入学生用

学校番号	216

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学演習Ｂ	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	キートレーニング　数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C [ベクトル]						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学を学ぶことにおいて大切なことは、単に「計算が速く正確にできる」「問題を解く技能が上達する」ということだけではありません。数学の学習を通して、数・量・図形等に対するセンスや論理的な考え方や本質を見抜く力、自分が考えたことを正確に表現する力が養われます。現代社会は猛スピードで進化する情報化社会であり、あふれ返った多くの情報の中で、私たちは本物を探し求めて行かなければなりません。この数学の学習を通して、少しでも真実を見極める力が身に付くことを願っています。

2　学習の到達目標

1．数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの各科目の基礎の確認と基本問題を復習させ、知識、技能の定着を目指す。
2．問題演習の過程で、難易度の高い問題も基本を発展、統合させている事実に気づき、それらを的確に論理的に表現できる力を養う。
3．主体的に問題演習に取り組むことにより、解答に際しての敏速性と正確性を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学の考え方についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	数学Ⅰ A 演習	式の計算・実数・1次不等式・命題と条件・命題と証明・データの整理・2次関数とグラフ・2次関数の値の変化・2次方程式と2次不等式・三角比・三角形への応用・集合の要素の個数・場合の数・確率・三角形の辺の比・チェバの定理・メネラウスの定理・円に内接する四角形・約数と倍数・最小公倍数・ユークリッドの互除法	a: ・数学Ⅰ・A の基本的な計算や公式について理解している b: ・問題を解決する際に，すでに学習した内容と関連づけて，分野を横断するなど式を多面的に捉えることができる。 c: ・学んだことのよさを認識し活用したり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。	定期考査	定期考査	演習活動 ノート ワークシート 課題プリント
2	数学Ⅱ演習	恒等式・式の値・相加相乗平均・解と係数の関係 ・高次方程式・直線と円の方程式・軌跡・不等式の表す領域 ・関数と最大最小・加法定理と２倍角の公式・三角関数の合成・指数、対数の計算、グラフ、桁数・指数、対数の方程式と不等式及び最大最小・関数の極限値・接線と方程式・微積の計算・方程式の実数の個数・面積の計算	a: ・数学Ⅱの基本的な計算や公式について理解している b: ・問題を解決する際に，すでに学習した内容と関連づけて，分野を横断するなど式を多面的に捉えることができる。 c: ・学んだことのよさを認識し活用したり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。	定期考査	定期考査	演習活動 ノート ワークシート 課題プリント
3	数学B 演習	等差数列、等比数列 ・階差数列 ・群数列と漸化式 ・数学的帰納法 ・数学Ⅰの復習	a: ・数学 B の基本的な計算や公式について理解している b: ・問題を解決する際に，すでに学習した内容と関連づけて，分野を横断するなど式を多面的に捉えることができる。 c: ・学んだことのよさを認識し活用したり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。	定期考査	定期考査	演習活動 ノート ワークシート 課題プリント

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度